

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：32203

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2023

課題番号：18K02797

研究課題名(和文) 早期発症摂食障害の病態解明：生理的バイオマーカーと心理特性・行動療法の効果検証

研究課題名(英文) Pathophysiology of early-onset eating disorders: physiological biomarkers and psychometric and behavioral therapy efficacy testing

研究代表者

大谷 良子 (OTANI, RYOKO)

獨協医科大学・医学部・助教

研究者番号：80383074

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：小児思春期摂食障害について(1)包括的地域診療プログラムの構築と(2)その治療効果や入院日数の予測因子の検討、を研究目的とした。(1)小児思春期摂食障害入院治療プログラムを当科で作成した。プログラム内容は日本摂食障害学会や小児心身医学会の学術集会で発表した。また学会誌へ寄稿した。(2)2014年から2021年の8年間に入院治療プログラムを行った神経性やせ症女子110名を対象として入院日数と生理的指標の相関を検討した。時間変数を加えて生存分析を行った結果では、入院患者の入院日数を予測する因子として収縮期血圧の変化が示唆された。その結果は小児神経学会学術集会で発表を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

小児思春期摂食障害は、発育を要する時期に十分な栄養が充足されないことによって低身長、骨密度の低下、初経発来遅延などの身体的合併症をきたし、さらには発達過程の時期に教育や対人コミュニケーションなどの機会が損なわれることで社会生活や家族機能にも大きな影響をきたすことも少なくない。そのため早期対応が重要だが小児において治療構造が統一化されているとは言い難い。小児摂食障害患者の4割以上が入院治療を要する背景を踏まえ、小児病棟で行える入院治療プログラムを作成したこと、さらに入院日数を予測する生理的指標を検討した学術的意義や社会的意義は大きい。

研究成果の概要(英文)：The objectives of the study on childhood adolescent eating disorders were as follows: (1) to establish a comprehensive community treatment program, and (2) To examine the effectiveness of the program and the predicted length of hospital stay. (1) Establish an inpatient treatment program for early-onset eating disorders in our department. The contents of the program were presented at meetings of Japan Society for Eating Disorders and Japan Society of Psychosomatic Pediatrics. We also contributed articles to academic journals. (2) We examined the correlation between the number of days of hospitalization and physiological indices in 110 girls with anorexia nervosa who underwent an inpatient treatment program over an 8-year period from 2014 to 2021. The results of a survival analysis with the addition of a time variable suggested changes in systolic blood pressure as a predictor of inpatient hospital days. The results were presented at meeting of The Japanese Society of Child Neurology.

研究分野：小児心身医学

キーワード：小児思春期摂食障害 入院治療プログラム 生理的指標 入院日数 収縮期血圧

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

少子化が危惧される日本において、心身ともに健全な青少年育成は国民的課題である。しかしながら日本人女性の出生コホートによる体格指数 BMI の変化によると (国民栄養調査: 1948-2005 年の追跡研究) 25 歳時点で、1940 年代には 21.5 であったが、1970 年代以降は 20.0 を下回るようになった。特に若年層の女性の 1 日の平均摂取カロリーは約 1900kcal であり、飽食の時代でありながら栄養失調状態レベルであることが危惧されている。中でも問題は思春期やせ症 (神経性やせ症) が急増していることであり、特に 10 代前半に発症する小児思春期摂食障害は、本邦だけでなく、先進国でも共通して増加している。発育を要する時期に十分な栄養が充足されないことによって低身長、骨密度の低下、初経発来遅延などの身体的合併症をきたし、さらには発達過程の時期に教育や対人コミュニケーションなどの機会が損なわれることで社会生活や家族機能にも大きな影響をきたすことも少なくない。そのため特に小児では早期発見、早期対応が重要だが研究当初の本邦では治療構造が統一化されているとは言い難かった。

2. 研究の目的

上記の背景を踏まえて本研究の目的は、多数の外来および入院患者を抱える摂食障害専門医療機関において、小児思春期やせ症のリスク因子を同定し、予防や治療介入法の発展に寄与すること、さらに、医療体制と家庭および学校との連携モデルを構築し、約 10 年にわたる縦断的介入研究を実施することとした。本研究によって、小児思春期やせ症で苦しむ患児及びその家族の救済、治療体系の確立、早期発見や予防啓発への寄与が期待された。

3. 研究の方法

(1) 治療介入の発展への寄与:

初診が 15 歳未満であることが多い小児科領域において、やせ願望を伴う神経性やせ症 (anorexia nervosa: AN) の当科初診患者の 6 割は入院を要する。一般小児科病棟で行える多職種協働の入院治療プログラムを構築した。

(2) リスク因子の同定:

2014 年から 2021 年の 8 年間に入院治療プログラムを行った AN 女子 110 名を対象として入院日数と生理的指標について生存分析を行い、入院患者の入院日数の予測因子を検討した。

4. 研究成果

(1) 小児病棟で行える多職種協働の入院プログラムの構築

近年、摂食症治療は外来治療が中心となっている。英国の NICE ガイドラインでは、AN のほとんどは外来治療すべきである、とした上で、入院治療においては注意深い身体的モニタリングと再栄養が可能、かつ、家族が治療に参加しやすくスムーズに退院移行可能なあまり遠方ではない施設、を推奨している¹⁾。実際には入院治療を要する程度の重症のやせや極端な経口摂取困難を呈する小児摂食症は稀ではなく、2017 年から 2022 年の 6 年間に当院を初診した小児摂食障害 291 名のうち入院治療を行ったのは 140 名 (48.1%) と約 5 割を占めた。また 140 名の内訳では AN104 名 (74.2%) やせ願望を伴わない回避・制限性食物摂取症 35 名 (25%) と入院治療を要した 7 割以上が AN だった。小児領域の入院治療は小児科医が担うことが多いが、治療抵抗を示すこともある摂食障害は医師のみならず看護師からも敬遠されやすい。そのため当院の入院治療プログラムを作成した。特徴としては、2 枚の行動表を用いて子どもに見通しとある程度の枠組みを持たせることと多職種協働である。図 1 に治療チームと役割を図示した。また、表 1 は入院治療の流れである。

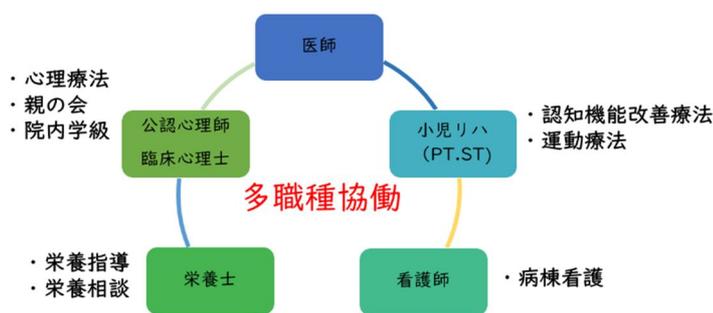


図 1. 入院治療における多職種協働

表1. 入院治療の流れ

入院時期	STEP1：入院から身体的安定化まで (再栄養症候群のリスクがなくなるまで)	STEP2：退院まで (末梢輸液終了後から退院までのことが多い)
期間	約2週間	約2-6か月 (平均約3か月)
行動表	行動表①	行動表②
末梢輸液	輸液は国際的には推奨されていないが当センターでは実施していることが多い。その際も急速輸液は避け1日1L程度が目安、栄養漸増に伴い速やかに漸減中止を図る	なし
再栄養	600-800kcal/日程度から開始, 1200-1400kcal/日まで週に1-2度の間隔で200kcalずつ増量 P低下がある場合は輸液でのP補充に加えて、P製剤、ビタミンの内服を行う	0.5-1kg/週の増加を目標に年齢相応の栄養~3000kcal/日程度まで増量 食事回数は3食+間食(午前、午後)までは許容 食事時間は2時間までで下膳
体重測定	週に2回の頻度で計測, 身体的安定化以降は体重増加も目安に栄養量を増量する	
検査	Refeeding症候群のリスクが高い時期は連日から週に2-3回電解質評価 栄養評価目的: 血液・尿検査, 心電図, 心エコー, 骨密度, 基礎代謝 器質的疾患除外目的: 頭部MRI, 必要時腹部エコー	2週間-1か月に1度程度で栄養評価
モニタリング	心電図モニター, 就寝時SpO2モニター バイタルサイン3検, 尿量測定, 飲水量測定, 7点血糖	左記を順次終了
子ども, 親との面談	検査時, 治療内容変更時に面談	週に1度は治療の振り返りなど面談を実施
心理療法	身体的安定化までは介入しないことが多い	支持的精神療法, 疾病教育(疾患の外在化含む), 遊戯療法など
行動制限	行動表例①に準じる. 身体的に不安定な時期のため安静度は比較的厳密に行う	行動表例②に準じる 長い入院期間を乗り切るため個々にとって治療動機になる強化子を考える

当院の入院治療プログラムについては第25回日本摂食障害学会学術集会や第38回小児心身医学会学術集会などで招待講演として紹介を行った。また、当院の入院治療プログラムのエッセンスを含めた「小児摂食障害診療ガイドライン(改訂第3版)」の作成も小児心身医学会摂食障害ワーキンググループの入院治療班のリーダーとして携わった2)。

(2) 2014年から2018年の5年間に入院治療プログラムを行ったAN女子65名を対象として入院日数と生理的指標の相関を検討した。時間変数を加えて生存分析を行い、入院日数を予測する生理的指標を検討した。Table1、Table2は患者背景と入院時バイタルサインを示す。

Table3はCox比例ハザード回帰分析の結果であり、入院日数を予測する因子としては心拍の正常化が有意な影響を与えていたことが分かった。

この結果は、2020年の小児神経学会で発表した。

Table 1. Subject Characteristics (n = 65)

	Subjects (n = 65) Mean ± SD (range) or Quartile
Age at admission (yrs)	9-16 (median, 13) or 13.X ± XX
Female (no. patients)	61 (94%)
Admission, percent of IBW	62.4~72.1 (median, 67.2) or 67.2 ± XX
Hospitalization period (day)	50-110 (median, 92.1)
Diagnosis at admission (no. patients)	
• Anorexia Nervosa	56 (86.9%)
• Avoidant/Restrictive Food Intake Disorder	9 (13.1%)

IBW = ideal body weight.

Table 2. Vital signs at admission (n = 65)

	median (quartiles)
Temperature	36.5 (36.2-36.5)
Vital Signs:	
Systolic Blood Pressure	86 (81.5-95.5)
Diastolic Blood Pressure	50 (44.0-57.0)
Heart Rate (bpm)	64 (53.0-73.0)

bpm: beats per minute

Table3.

Cox比例ハザード生存時間分析

	対数ハザード比推定値 coef	ハザード比の 推定値 exp(coef)	標準 誤差 se(coef)	ロバスト標準誤差 robust se	Z値 z	p
体温	-0.002	0.998	0.547	0.499	-0.003	0.997
心拍	1.320	3.744	0.729	0.793	1.665	0.096
拡張期	15.984	8748472.319	3865.360	0.354	0.354	0.000
収縮期	0.417	1.517	0.393	0.385	1.082	0.279

Likelihood ratio test=7.69 on 4 df, p=0.1035

$P < 0.1$ を有意な影響とした

心拍数(ハザード比=3.744, $p=0.096$)が有意に影響を与えていた

収縮期血圧はハザード比1.51と影響を与えている可能性があるが有意ではなかった

拡張期血圧のハザード比の異常値は、患者の多くが入院時にカットオフを超えていた影響が考えられた

【引用文献】

- (1) National Institute for health and Clinical Excellence (NICE): Eating disorders: recognition and treatment, full guideline(<https://www.nice.org.uk/guidance/ng69>) [Accessed 4 November 2023]
- (2) 一般社団法人日本小児心身医学会摂食障害ワーキンググループ: 小児摂食障害診療ガイドライン(改訂第3版). 子の心とからだ.2023, 32(3): 396-450

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計33件（うち査読付論文 13件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Kitajima T, Otani R, Inoue T, Matsushima N, Matsubara N, Sakuta R.	4. 巻 Dec 12;16(1):27
2. 論文標題 Sensory processing in children and adolescents shortly after the onset of anorexia nervosa: a pilot study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Biopsychosocial medicine.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s13030-022-00256-z.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 作田亮一、大谷良子、松島奈穂	4. 巻 40(5)
2. 論文標題 【臨床医が一度は考えてみたい治療終結のポイント】小児領域の摂食障害の治療の終了を考えるととき.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 精神科	6. 最初と最後の頁 721-727
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大谷良子	4. 巻 40(2)
2. 論文標題 子どもの摂食障害	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 思春期医学	6. 最初と最後の頁 207 - 212
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大谷良子	4. 巻 70(3)
2. 論文標題 【子どもの健康を守る教育と医療の連携】子どもの摂食障害 学校-病院の連携.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 教育と医学	6. 最初と最後の頁 238-245
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 2. Inoue T, Otani R, Iguchi T, Ishii R, Uchida S, Okada A, Kitayama S, Koyanagi K, Suzuki Y, Suzuki Y, Sumi Y, Takamiya S, Tsurumaru Y, Nagamitsu S, Fukai Y, Fujii C, Matsuoka M, Iwanami J, Wakabayashi A, Sakuta R	4. 巻 May 17
2. 論文標題 Prevalence of autism spectrum disorder and autistic traits in children with anorexia nervosa and avoidant/restrictive food intake disorder. Biopsychosocial medicine.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Biopsychosocial medicine.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s13030-021-00212-3.PMID: 34001197	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Okajima J, Kato N, Nakamura M, Otani R, Yamamoto J, Sakuta R:	4. 巻 May 19
2. 論文標題 A Pilot Study of Combining Social Skills Training and Parenting Training for Children with Autism Spectrum Disorders and their Parents in Japan. Brain and Development.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Brain and Development.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.braindev.2021.04.007.	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kobayashi M, Ikeda T, Tokuda T, Monden Y, Nagashima M, Mizushima SG, Inoue T, Shimamura K, Ujiie Y, Arakawa A, Kuroiwa C, Ishijima M, Kishimoto Y, Kanazawa S, Yamagata T, Yamaguchi MK, Sakuta R, Dan I	4. 巻 Apr;7
2. 論文標題 Acute administration of methylphenidate differentially affects cortical processing of emotional facial expressions in ADHD children as studied by functional near infrared spectroscopy.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Neurophotonic	6. 最初と最後の頁 25003
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1117/1.NPh.7.2.025003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Otani M, Hiraide M, Horie T, Mitsui T, Yoshida T, Takamiya S, Sakuta R, Usami M, Komaki G, Yoshiuchi K	4. 巻 Feb;54
2. 論文標題 Psychometric properties of the Eating Disorder Examination-Questionnaire and psychopathology in Japanese patients with eating disorders.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The International journal of eating disorders	6. 最初と最後の頁 203-211
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/eat.23452	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 井口敏之, 内田創, 井上建, 作田亮一, 岡田あゆみ, 藤井智香子, 北山真次, 小柳憲司, 鈴木雄一, 鈴木由紀, 須見よし乃, 高宮静男, 永光信一郎, 深井善光	4. 巻 29
2. 論文標題 多施設共同研究による摂食障害症例131例.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 子どもの心とからだ	6. 最初と最後の頁 2-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北島翼, 松原直己, 松島奈穂, 荒川明里, 越野由紀, 大谷良子, 作田亮一	4. 巻 47
2. 論文標題 小児摂食障害患児の感覚特性-本人と親それぞれの視点から-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 獨協医学会雑誌	6. 最初と最後の頁 92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松浦直己	4. 巻 60
2. 論文標題 非行臨床の現在-どのような教育や治療評価が展開されているのか-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 小児の精神と神経	6. 最初と最後の頁 145-146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松浦直己	4. 巻 60
2. 論文標題 児童自立支援施設の夫婦小舎制に焦点化して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 小児の精神と神経	6. 最初と最後の頁 146 - 149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24782/jsppn.60.2_146	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田村にしき 松浦直己	4. 巻 44
2. 論文標題 能の学習が児童の心身に与える影響：アンケート調査による検証	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本民俗音楽学会	6. 最初と最後の頁 1 - 10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松浦直己	4. 巻 1222
2. 論文標題 認知の歪みを持つ子どもへの理解と対応1	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 小児保健ニュース	6. 最初と最後の頁 4-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松浦直己	4. 巻 1225
2. 論文標題 認知の歪みを持つ子どもへの理解と対応2	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 小児保健ニュース	6. 最初と最後の頁 4 - 5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山下大輔, 向井隆代, 千葉比呂美, 櫻井利恵子, 松岡美智子, 石井隆大, 須田正勇, 下村豪, 須美よし乃, 鈴木雄一, 深井善光, 内田創, 作田亮一, 井上建, 大谷良子, 井口敏之, 鈴木由紀, 高宮静男, 北山真次, 鶴丸靖子, 藤井智香子, 岡田あゆみ, 小柳憲司, 山下裕史朗, 角間辰之, 永光信一郎	4. 巻 28
2. 論文標題 小児摂食態度調査票 (ChEAT-26)の有用性について-神経性やせ症と回避・制限性食物摂取症との比較から-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 子どもの心とからだ	6. 最初と最後の頁 51 - 57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nagamitsu S, Fukai Y, Uchida S, Matsuoka M, Iguchi T, Okada A, Sakuta R, Inoue T, Otani R, Kitayama S, Koyanagi K, Suzuki Y, Suzuki Y, Sumi Y, Takamiya S, Fujii C, Tsurumaru Y, Ishii R, Kakuma T, Yamashita Y	4. 巻 13:21
2. 論文標題 Validation of a childhood eating disorder outcome scale.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Bio PsychoSocial Medicine	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s13030-019-0162-3. eCollection 2019.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田村にしき 松浦直己	4. 巻 44
2. 論文標題 能の学習が児童の心身に与える影響 : アンケート調査による検証	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本民俗音楽学会	6. 最初と最後の頁 1 - 10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takaharu Ohara Naomi Matsuura Nobuko Hagiuda Natsuki Wakasugi	4. 巻 25
2. 論文標題 The effects of correctional education on juvenile delinquents and the factors for their overall changes: Focusing on academic performance and family type environment	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Child & Family Social Work	6. 最初と最後の頁 12 - 21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松浦直己	4. 巻 12
2. 論文標題 自分を肯定するために - 行動の問題を示す子への理解と対応	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 発達教育	6. 最初と最後の頁 3-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Naru Fukuchi, Eugen Koh, Shusaku Chiba, Naomi Matsuura	4. 巻 21
2. 論文標題 Single-day Psychoeducational Program for Children after the Great East Japan Earthquake and Tsunami of 2011	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of Emergency Mental Health and Human Resilience	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakajima, A. Matsuura, Naomi Mukai, Keiichiro	4. 巻 72
2. 論文標題 Ten-year follow-up study of Japanese patients with obsessive ;compulsive disorder	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Psychiatry and clinical neurosciences	6. 最初と最後の頁 502 - 512
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.12661. Epub 2018 May 21.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mukai K, Matsuura N, Nakajima A, Yanagisawa Y, Yoshida Y, Maebayashi K, Hayashida K, Matsunaga H	4. 巻 262
2. 論文標題 Evaluations of hemodynamic changes during neuropsychological test batteries using nearinfrared spectroscopy in patients with obsessive-compulsive disorder.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Psychiatry research. Neuroimaging	6. 最初と最後の頁 1 - 7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.psychresns.2017.01.010	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 作田亮一	4. 巻 132
2. 論文標題 【栄養指導に活かす行動医学の視点-患者のこころとからだを支えるために】 (Part 3)よりよい患者理解のために 行動医学からみた各疾患領域 ARFID やせ願望のない子どもの摂食障害.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 臨床栄養	6. 最初と最後の頁 844-849
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 作田亮一	4. 巻 123
2. 論文標題 子どもの摂食障害-早期発見と包括的治療	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 小児科学会雑誌	6. 最初と最後の頁 548-557
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 作田亮一	4. 巻 27
2. 論文標題 子どもと親のこころを育む 心を視て理解する.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 子どもの心とからだ	6. 最初と最後の頁 418-421
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hamatani Sayo, Matsumoto Kazuki, Andersson Gerhard, Tomioka Yukiko, Numata Shusuke, Kamashita Rio, Sekiguchi Atsushi, Sato Yasuhiro, Fukudo Shin, Sasaki Natsuki, Nakamura Masayuki, Otani Ryoko, Sakuta Ryoichi, Hirano Yoshiyuki, Kosaka Hirotaka, Mizuno Yoshifumi	4. 巻 12
2. 論文標題 Guided Internet-Based Cognitive Behavioral Therapy for Women With Bulimia Nervosa: Protocol for a Multicenter Randomized Controlled Trial	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 JMIR Research Protocols	6. 最初と最後の頁 e49828 ~ e49828
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2196/49828	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土生川千珠, 村上佳津美, 石井隆大, 柳本嘉時, 井上建, 岡田あゆみ, 吉田誠司, 竹中義人, 大谷良子, 作田亮一, 田中知絵, 藤井智香子, 重安良恵, 淵上達夫, 藤田 之彦, 渡部泰弘, 小柳憲司, 松島礼子, 大堀彰子, 永井章, 井口敏之, 江島伸興, 永光信一郎	4. 巻 127(10)
2. 論文標題 COVID-19対策での長期休校措置前後の小児心身症関連疾患受診者数の推移.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本小児科学会雑誌	6. 最初と最後の頁 1277-1288
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木雄一,大谷良子,井上建,井口敏之,鈴木由紀,柳本嘉時,富岡和美,藤井智香子,石井隆大,石橋孝勇	4. 巻 32(3)
2. 論文標題 小児摂食障害診療ガイドライン改訂第3版	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 子どもの心とからだ	6. 最初と最後の頁 396-450
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大谷良子	4. 巻 55巻増刊号
2. 論文標題 エキスパートが教える小児の薬物治療：摂食障害	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 小児内科	6. 最初と最後の頁 853-856
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大谷良子	4. 巻 32(4)
2. 論文標題 『食べられない』子どもたち：神経性やせ症と回避・制限性食物摂取症	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 子どもの心とからだ	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大谷良子	4. 巻 65(3)
2. 論文標題 摂食障害-子どものこころ外来	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 小児科	6. 最初と最後の頁 235-241
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大谷良子	4. 巻 10
2. 論文標題 コロナパンデミックにおける小児摂食障害	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 総合的健康美学研究	6. 最初と最後の頁 17-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計60件 (うち招待講演 14件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 大谷良子
2. 発表標題 COVID-19パンデミックに伴い増加した児童思春期摂食障害の臨床的特徴
3. 学会等名 第64回日本小児神経学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大谷良子
2. 発表標題 小児期の神経発達症に伴う摂食と睡眠の問題
3. 学会等名 第25回日本摂食障害学会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大谷良子
2. 発表標題 子どものこころ診療摂食障害入院プログラムの紹介
3. 学会等名 第25回日本摂食障害学会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大谷良子
2. 発表標題 小児期の摂食障害の理解と対応：神経性やせ症と回避・制限性食物摂取症
3. 学会等名 第17回日本社会精神医学会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大谷良子
2. 発表標題 パンデミックによって児童思春期摂食障害はどのように変化したのか？
3. 学会等名 第124回日本小児科学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大谷良子
2. 発表標題 思春期のこころとからだの問題：不登校、摂食障害、起立性調節障害を中心に.
3. 学会等名 第124回日本小児科学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 作田亮一
2. 発表標題 神経発達症と心の関連領域.
3. 学会等名 第6回日本小児神経学会小児神経学サテライトセミナー（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 作田亮一
2. 発表標題 摂食障害と自閉スペクトラム症
3. 学会等名 日本特殊教育学会第59回大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大谷良子
2. 発表標題 小児科医による摂食障害治療：当科における新しい試み
3. 学会等名 第24回日本摂食障害学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 北島翼， 松島奈穂， 森下菖子， 椎橋文子， 春日晃子， 松原直己， 荒川明里， 井上建， 越野由紀， 大谷良子， 川上優太郎， 山下匠一，
2. 発表標題 児童思春期摂食障害診療における遠隔コンサルテーションの可能性.
3. 学会等名 第39回日本小児心身医学会学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 11.尾上ふみ， 香川まみ， 北島翼， 嶋田怜士， 春日晃子， 森下菖子， 椎橋文子， 松原直己， 松島奈穂， 井上 建， 大谷良子， 作田亮一
2. 発表標題 神経性やせ症に対する認知改善療法の効果の検証.
3. 学会等名 第24回日本摂食障害学会学会.
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大谷良子
2. 発表標題 小児科診療における思春期摂食障害の課題と対応.
3. 学会等名 第38回日本小児心身医学会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大谷良子, 松島奈穂, 松原直己, 北島翼, 荒川明里, 井上建, 越野由紀, 板橋尚, 村上信行, 松浦直己, 作田亮一
2. 発表標題 小児摂食障害入院患者における生理的指標の生存時間分析
3. 学会等名 第62回日本小児神経学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 荒川明里, 松島奈穂, 松原直己, 北島翼, 井上建, 大谷良子, 作田亮一
2. 発表標題 入院治療を要した神経性やせ症女児における基礎代謝・体組成の検討
3. 学会等名 第62回日本小児神経学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 井上建, 大谷良子, 松原知代, 作田亮一, 日本小児心身医学会摂食障害ワーキンググループメンバー
2. 発表標題 小児摂食障害における自閉スペクトラム症の有病率および自閉傾向の検討
3. 学会等名 第123回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大谷良子, 松島奈穂, 北島翼, 松原直己, 荒川明里, 井上建, 越野由紀, 作田亮一
2. 発表標題 小児注意欠如多動症におけるグアンファシン特定使用成績調査30例の中間報告
3. 学会等名 第123回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 水谷亮, 大谷良子, 越野由紀, 松島奈穂, 松原直己, 北島翼, 荒川明里, 井上建, 白石昌久, 松原知代, 作田亮一
2. 発表標題 摂食障害児の腎機能に関する検討
3. 学会等名 第123回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 北島翼, 大谷良子, 小木曾梓, 岩波純平, 吉田有希, 黒岩千枝, 中込美香, 水島栄, 深谷悠太, 森下 菫子, 椎橋文子, 松島奈穂, 松原直己, 荒川明里, 井上建, 越野由紀, 作田亮一
2. 発表標題 小児摂食障害における感覚処理特性-本人と親それぞれの視点から-
3. 学会等名 第38回日本小児心身医学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 荒川明里, 大谷良子, 小木曾梓, 岩波純平, 吉田有希, 黒岩千枝, 中込美香, 水島栄, 松島奈穂, 松原直己, 北島翼, 井上建, 越野由紀, 作田亮一
2. 発表標題 入院治療を要した神経性やせ症 (AN) 双胎2症例の検討
3. 学会等名 第38回日本小児心身医学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岩波純平, 井上建, 小木曾梓, 水島栄, 松原直己, 北島翼, 松島奈穂, 中込美香, 黒岩千枝, 吉田有希, 大谷良子, 作田亮一
2. 発表標題 埼玉県中学生における体型と摂食態度との関連調査.
3. 学会等名 第38回日本小児心身医学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 井上建, 岩波純平, 水島栄, 小木曾梓, 吉田有希, 黒岩千枝, 中込美香, 松島奈穂, 松原直己, 北島翼, 荒川明里, 森下菫子, 椎橋文子, 大谷良子, 作田亮一
2. 発表標題 埼玉県中学生における自閉傾向と摂食行動の関連調査
3. 学会等名 第38回日本小児心身医学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小木曾梓, 水島栄, 松原直己, 井上建, 北島翼, 松島奈穂, 中込美香, 黒岩千枝, 吉田有希, 岩波純平, 大谷良子, 作田亮一
2. 発表標題 マルチトリートメントを背景にもつ神経性やせ症患児への入院時TF-CBT の試み.
3. 学会等名 第11回日本小児心身医学会関東甲信越地方会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 水島栄, 小木曾梓, 松原直己, 井上建, 北島翼, 松島奈穂, 中込美香, 黒岩千枝, 吉田有希, 岩波純平, 大谷良子, 作田亮一
2. 発表標題 マルチトリートメントを背景に持つ摂食障害入院患児保護者への家族支援 トラウマインフォームドアプローチ.
3. 学会等名 第11回日本小児心身医学会関東甲信越地方会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松原直己, 森下菫子, 椎橋文子, 松島奈穂, 北島翼, 荒川明里, 井上建, 越野由紀, 大谷良子, 作田亮一
2. 発表標題 小児摂食障害患者の再栄養中の血糖推移.
3. 学会等名 第48回獨協医学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 荒川明里, 松島奈穂, 北島翼, 越野由紀, 大谷良子, 作田亮一
2. 発表標題 入院治療を要した神経性やせ症 (AN) 双胎2症例の検討.
3. 学会等名 第10回日本小児心身医学会関東甲信越地方会.
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大谷良子, 松島奈穂, 北島翼, 荒川明里, 井上建, 越野由紀, 作田亮一
2. 発表標題 過去5年間に於ける小児摂食障害の臨床病型の検討
3. 学会等名 第122回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大谷良子, 松島奈穂, 北島翼, 荒川明里, 井上建, 越野由紀, 板橋尚, 島村圭一, 村上信行, 作田亮一
2. 発表標題 小児摂食障害男児例の臨床的特徴の検討.
3. 学会等名 第61回日本小児神経学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松島奈穂, 大谷良子, 越野由紀, 荒川明里, 北島翼, 井上建, 島村圭一, 板橋尚, 村上信行, 作田亮一
2. 発表標題 小児摂食障害の早期発見: 過去5年間における「気づき」調査.
3. 学会等名 第61回日本小児神経学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 黒岩千枝, 田副真美, 小木曾梓, 岩波純平, 吉田有希, 作田亮一
2. 発表標題 入院治療を行った神経性やせ症 (AN) 双胎児におけるエゴグラムの検討
3. 学会等名 日本交流分析学会第44回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉田有希, 岩波純平, 小木曾梓, 黒岩千枝, 中込美香, 水島栄, 松島奈穂, 北島翼, 越野由紀, 大谷良子, 作田亮一
2. 発表標題 小児摂食障害患者親の会における「語り」の定量的検討.
3. 学会等名 第37回日本小児心身医学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北島翼, 大谷良子, 松原直己, 松島奈穂, 荒川明里, 越野由紀, 作田亮一.
2. 発表標題 既往に学童期肥満を認めた小児摂食障害の検討
3. 学会等名 第37回日本小児心身医学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松原直己, 小木曾梓, 岩波純平, 水島栄, 松島奈穂, 北島翼, 大谷良子, 作田亮一
2. 発表標題 入院初期に再栄養期のせん妄を来した回避・制限性食物摂取症 (ARFID) 女児例
3. 学会等名 第23回摂食障害学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井上建, 大谷良子, 作田亮一, 松原知代, 日本小児心身医学会摂食障害ワーキングメンバー
2. 発表標題 小児神経性やせ症の自閉スペクトラムの有病率と自閉傾向の検討.
3. 学会等名 第122回日本小児精神神経学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北島翼, 松原直己, 松島奈穂, 荒川明里, 越野由紀, 大谷良子, 作田亮一
2. 発表標題 小児摂食障害患児の感覚特性-本人と親それぞれの視点から-
3. 学会等名 第47回獨協医学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松浦直己
2. 発表標題 非行臨床の現在 どのような教育や治療・評価が展開されているか
3. 学会等名 日本小児精神神経学会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松浦直己
2. 発表標題 災害後の縦断的子どもと母親のメンタルヘルス研究
3. 学会等名 日本トラウマチックストレス学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大谷良子, 岩波純平, 吉田有希, 黒岩千枝, 中込美香, 松島奈穂, 荒川明里, 井上建, 作田亮一
2. 発表標題 摂食障害シンポジウム：小児科医としてできる初期対応と予防医学の試み
3. 学会等名 第36回日本小児心身医学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 越野由紀, 大谷良子, 森田翼, 尾野花純, 永井爽, 田中慎一郎, 荒川明里, 小野裕子, 大戸佑二, 板橋尚, 元木京子, 島村圭一, 白石昌久, 新田晃久, 村上信行, 松原知代, 作田亮一
2. 発表標題 海苔のみの極端な偏食で入院治療を要した自閉スペクトラム症 (ASD) の1例
3. 学会等名 第144回埼玉県小児科医会 第171回日本小児科学会埼玉地方会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大谷良子, 越野由紀, 荒川明里, 井上建, 板橋尚, 島村圭一, 村上信行, 作田亮一
2. 発表標題 小児摂食障害の入院治療戦略
3. 学会等名 第60回日本小児神経学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 越野由紀, 大谷良子, 吉田有希, 黒岩千枝, 中込美香, 尾上ふみ, 作田亮一
2. 発表標題 海苔のみの極端な偏食に対して多職種による治療介入を行なった自閉スペクトラム症の1例
3. 学会等名 第36回日本小児心身医学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 黒岩千枝, 岩波純平, 吉田有希, 中込美香, 松島奈穂, 荒川明里, 井上建, 越野由紀, 大谷良子, 田副真美, 作田亮一
2. 発表標題 摂食障害患者の対人関係における基本的構えと摂食障害傾向の関連.
3. 学会等名 第36回日本小児心身医学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岩波純平, 吉田有希, 黒岩千枝, 中込美香, 松島奈穂, 荒川明里, 井上建, 越野由紀, 大谷良子, 田副真美, 作田 亮一
2. 発表標題 文章完成法 (SCT) からみた思春期神経性やせ症の心的特徴
3. 学会等名 第36回日本小児心身医学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 永光信一郎, 作田亮一, 岡田あゆみ, 石井隆大, 山下裕史朗
2. 発表標題 思春期健診とモバイルテクノロジーを活用した思春期ヘルスプロモーションに関する研究
3. 学会等名 第36回日本小児心身医学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉田有希, 井上建, 岩波純平, 黒岩千枝, 中込美香, 松島奈穂, 荒川明里, 越野由紀, 大谷良子, 田副真美, 作田亮一
2. 発表標題 中学生の生活習慣とBMI-SDSに及ぼす要因の検討-健常群を対象とした探索的調査-
3. 学会等名 第36回日本小児心身医学会学術集
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中島明子, 大谷良子, 作田亮一
2. 発表標題 小児摂食障害の包括的入院治療プログラムにおける看護師の役割
3. 学会等名 第36回日本小児心身医学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大谷良子, 岩波純平, 吉田有希, 黒岩千枝, 中込美香, 松島奈穂, 荒川明里, 越野由紀, 作田亮一
2. 発表標題 入院治療を要した神経性やせ症男児3例の臨床的特徴
3. 学会等名 第22回日本摂食障害学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 深井善光, 高宮静男, 作田亮一, 井口敏之, 岡田あゆみ
2. 発表標題 小児摂食障害の精神病理を踏まえた多軸評価
3. 学会等名 第22回日本摂食障害学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松島奈穂, 大谷良子, 荒川明里, 越野由紀, 岩波純平, 吉田有希, 黒岩千枝, 中込美香, 作田亮一
2. 発表標題 回復を拒む自閉スペクトラム症併存神経性やせ症女児:非言語的心理介入の検討
3. 学会等名 第22回日本摂食障害学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松島奈穂, 大谷良子, 荒川明里, 越野由紀, 作田亮一
2. 発表標題 摂食障害患者に対する薬物療法. 第46回獨協医学会学術集会
3. 学会等名 第46回獨協医学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Naomi Matsuura
2. 発表標題 Impact of the Great East Japan Earthquake on Child Mental Health and Neurodevelopment
3. 学会等名 International Association for Child and Adolescent Psychiatry and Applied Professions (国際学会) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 作田亮一
2. 発表標題 子どもの摂食障害: 早期発見と包括的治療
3. 学会等名 第121回日本小児科学会教育講演
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 作田亮一
2. 発表標題 思春期やせの現状：神経発達症との関連
3. 学会等名 小児科学会主催、第13回思春期医学臨床講習会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 作田亮一
2. 発表標題 小児神経科医が知っておくべき思春期神経発達症・心身医学.
3. 学会等名 第60回日本小児神経学会シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 作田亮一
2. 発表標題 摂食障害の外来治療に関するマニュアル、ガイドラインとその活用について 日本小児心身医学会の指針とその活用について」日本小児心身医学会の指針とその活用について
3. 学会等名 第114回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 作田亮一
2. 発表標題 子どもの食とこころの問題
3. 学会等名 第30回宮城県小児保健学会、特別講演
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 作田亮一
2. 発表標題 子どもの摂食障害治療のエッセンス
3. 学会等名 第22回日本摂食障害学会、教育講演
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大谷良子
2. 発表標題 パンデミックによって児童思春期摂食障害はどのように変化したのか？
3. 学会等名 第124回小児科学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大谷良子
2. 発表標題 「食べられない子どもたち」とつながる：神経性やせ症と回避・制限性食物摂取症.
3. 学会等名 第22回日本母子看護学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大谷良子
2. 発表標題 「食べられない」子どもたち神経性やせ症と回避・制限性食物摂取症について.
3. 学会等名 第41回日本小児心身医学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大谷良子
2. 発表標題 摂食症（摂食障害）について
3. 学会等名 第26回日本摂食障害学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計20件

1. 著者名 大谷良子, 作田亮一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京医学社	5. 総ページ数 -
3. 書名 不定愁訴はなぜ増加しているか? -その背景因子.	

1. 著者名 大谷良子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 診断と治療社	5. 総ページ数 -
3. 書名 摂食障害	

1. 著者名 作田亮一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 アークメディア	5. 総ページ数 -
3. 書名 摂食障害と自閉スペクトラム症	

1. 著者名 作田亮一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 診断と治療社	5. 総ページ数 -
3. 書名 子どもの心身症	

1. 著者名 北島翼、作田亮一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京医学社	5. 総ページ数 -
3. 書名 神経性やせ症	

1. 著者名 作田亮一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 合同出版	5. 総ページ数 -
3. 書名 10代のためのもしかして摂食障害?と思ったときに読む本	

1. 著者名 大谷良子, 作田亮一	4. 発行年 2020年
2. 出版社 文光堂	5. 総ページ数 226
3. 書名 やせ. 症候から入る小児の身体診察.	

1. 著者名 作田亮一	4. 発行年 2020年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 1010
3. 書名 消化器系の訴え. 今日の小児治療指針第17版.	

1. 著者名 北島翼, 作田亮一	4. 発行年 2020年
2. 出版社 文光堂	5. 総ページ数 226
3. 書名 不登校. 症候から入る小児の身体診察.	

1. 著者名 作田亮一	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 216
3. 書名 発達障害とチームアプローチ. 発達障害白書2021年版	

1. 著者名 松浦直己	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中央法規出版	5. 総ページ数 175
3. 書名 教室で気になる子への行動療法	

1. 著者名 大谷良子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 かもがわ出版	5. 総ページ数 190
3. 書名 子ども白書2019	

1. 著者名 大谷良子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 診断と治療社	5. 総ページ数 126
3. 書名 子どものこころ診療エッセンス	

1. 著者名 作田亮一	4. 発行年 2019年
2. 出版社 女子栄養大学出版部	5. 総ページ数 160
3. 書名 栄養と料理	

1. 著者名 松浦 直己	4. 発行年 2018年
2. 出版社 中央法規出版	5. 総ページ数 158
3. 書名 教室でできる気になる子への認知行動療法	

1. 著者名 松浦 直己、八木 淳子、福地 成、榎屋 二郎	4. 発行年 2018年
2. 出版社 中央法規出版	5. 総ページ数 190
3. 書名 被災地の子どもたちのケア	

1. 著者名 アンソニー・ウォルシュ、松浦 直己	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 552
3. 書名 犯罪学ハンドブック	

1. 著者名 作田亮一	4. 発行年 2018年
2. 出版社 南江堂	5. 総ページ数 348
3. 書名 初学者のための小児心身医学テキスト	

1. 著者名 作田亮一	4. 発行年 2018年
2. 出版社 医歯薬出版社	5. 総ページ数 192
3. 書名 医学のあゆみBOOKS	

1. 著者名 大谷良子	4. 発行年 2024年
2. 出版社 中山書店	5. 総ページ数 1216
3. 書名 小児科診断・治療指針（改訂第3版）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	作田 亮一 (Sakuta Ryoichi) (40254974)	獨協医科大学・医学部・特任教授 (32203)	
研究分担者	松浦 直己 (Matsura Naomi) (20452518)	三重大学・教育学部・教授 (14101)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------